

令和 8年度 道路橋梁維持管理事業
福井橋補修工事

設計書
(当初設計)

工事番号

路線名等 市道 福井東線

工事箇所 相生市 矢野町福井 地内

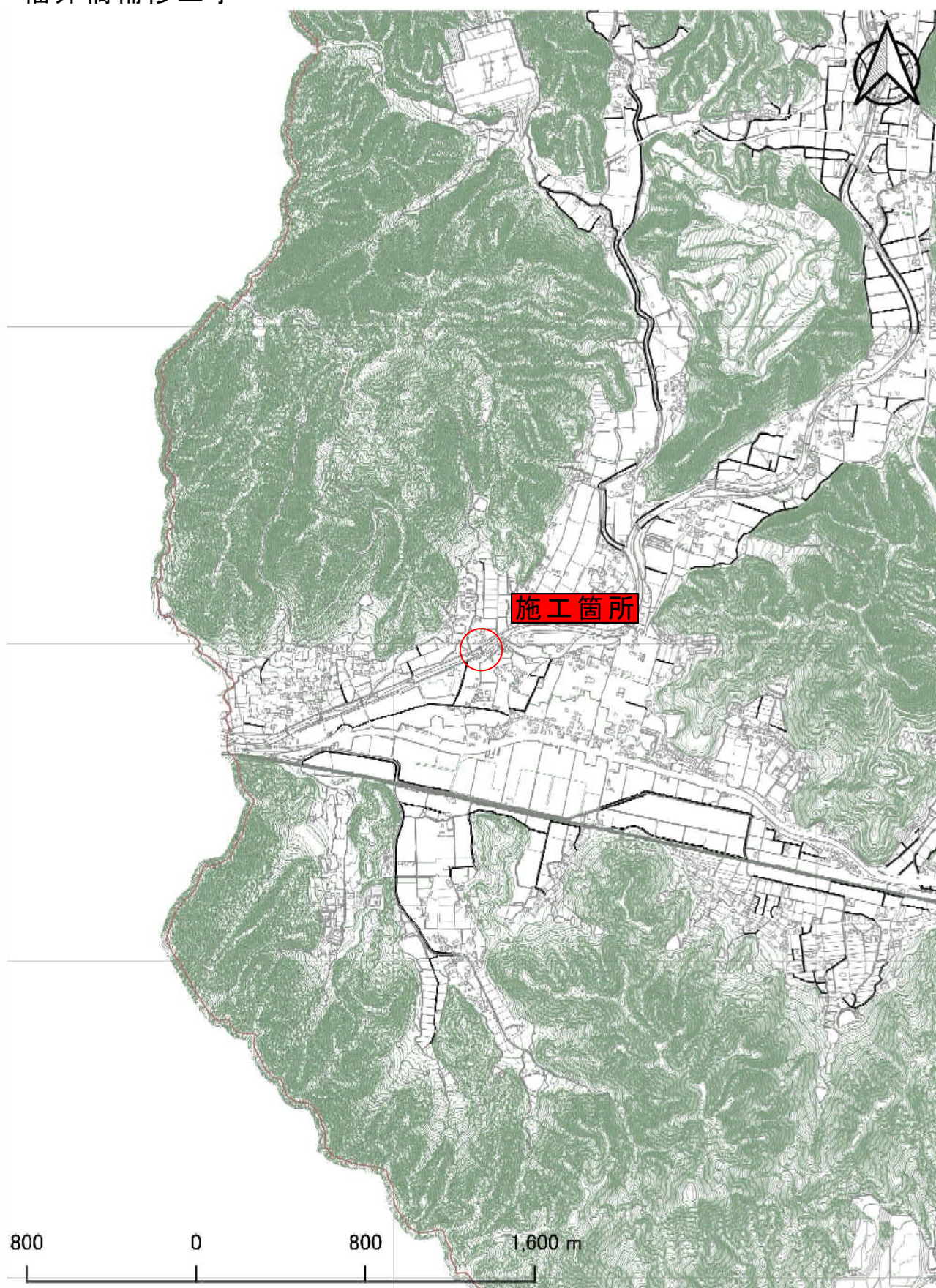
工 種 橋梁保全工事

[illegible]

位置図

S=1:25,000

福井橋補修工事



総括情報表

単価適用年月日	00-08.09.01(0)		
	今 回		前 回
工種区分（公共） 施工地域区分 契約保証費用 週休2日補正	31 橋梁保全 32 一般交通影響有り（2）－1 01 計上する 04 週休2日補正なし		

工事費内訳書

頁0-0002/0013

費目・工種・種別・細目		数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費											
橋梁保全工事											
橋梁補修工											
ひび割れ補修工											
低圧注入工法											
ひび割れ注入工 リハビリシリンドー工法同等品以上 $\Sigma L \geq 25m$										施工	第0 -0001号内訳表
		1		構造物							
断面修復工											
左官工法											
断面修復工法（左官工法） リハビリ断面修復工法同等品以上 $\Sigma V \geq 0.1m^3$										施工	第0 -0002号内訳表
		1		構造物							

工事費内訳書

頁0-0003/0013

費目・工種・種別・細目	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
殻運搬・処分(断面修復工)						
運搬費						
；運搬距離 5. 2 km	1		台			施工 第0 -0003号内訳表
処分費						
コンクリート殻(無筋)						
；投棄量 0. 2 m3	1		式			施工 第0 -0004号内訳表
表面含浸透工						
下地処理						
表面含浸工下地処理						
固定足場	56		m2			
時間的制約無し						
高压水洗い						
固定足場	1		構造物			施工 第0 -0005号内訳表
表面含浸工						
表面含侵工						
プロコンガードシステムS同等品以上	1		構造物			施工 第0 -0006号内訳表

工事費内訳書

頁0-0004/0013

費目・工種・種別・細目		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設工							
足場工							
足場工							
足場工設置・撤去							
		60	掛	m2			施工 第0 -0007号内訳表
交通管理工							
交通誘導警備員							
交通誘導警備員 B							
		6	人	日			施工 第0 -0008号内訳表
直接工事費計							
共通仮設費計							

工事費内訳書

頁0-0005/0013

費目・工種・種別・細目		数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
共通仮設費率分							
				式			
純工事費計							
現場管理費							
				式			
工事原価計							
一般管理費等							
				式			
工事価格計							
消費税相当額							
				式			
総 計							

施工単価表

施工 第0 -0001号内訳表

頁0-0006/0013

ひび割れ注入工

[規格1] リハビリシリンダー工法同等品以上

[規格2] $\Sigma L \geq 25m$

[摘要]

1

構造物 当り

名 称 ・ 規 格	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	5.21	人			1
特殊作業員	8.62	人			1
普通作業員	6.38	人			1
浸透拡散型亜硝酸リチウム40%水溶液 プロコン40同等品以上	46.7	kg			
セメント系超微粒子注入材 アーマ #600同等品以上	42.03	kg			
シール材 アーマ #120P同等品以上	21.41	kg			
注入器具 リハビリシリンダー同等品以上 転用品	360	本			
諸雑費	20	%			#01
単 位 当 り	1	構造物			

施工 第0 -0002号内訳表

頁0-0007/0013

〔規格 1〕リハビリ断面修復工法同等品以上

[規格 2] $\Sigma V \geq 0.1 \text{ m}^3$

[摘要]

構造物	当り
-----	----

[illegible]

頁0-0008/0013

[規格 1]

〔規格 2〕

[摘要]

1	台	当り
---	---	----

[illegible]

頁0-0009/0013

〔規格 1〕コンクリート殻(無筋)

〔規格 2〕

[摘要]

式

当り

[illegible]

施工 第0 -0005号内訳表

頁0-0010/0013

〔規格 1〕固定足場

〔規格 2〕

[摘要]

構造物 当り

[illegible]

施工 第0 -0006号内訳表

頁0-0011/0013

〔規格1〕プロコンガードシステムS同等品以上

〔規格 2〕

[摘要]

構造物 当り

[illegible]

施工単価表

施工 第0 -0007号内訳表

頁0-0012/0013

足場工設置・撤去

[規格1]		[規格2]	[摘要]			100	掛m2	当り
名 称 ・ 規 格		数 量	単 位	単 価	金 額	備 考		
土木一般世話役			人					1
とび工			人					1
普通作業員			人					1
ラフテレンクレーン(排出ガス対策型含) 油圧伸縮ジブ型 25t吊 オペレータ付き			日					1
諸雑費			%			#01		
合 計		100	掛m2					
単 位 当 り		1	掛m2					
A 工 法 B 安全ネットの有無			=2 =1	単管足場 安全ネットなし				

施工 第0 -0008号内訳表

頁0-0013/0013

〔規格 1〕

〔規格 2〕

[摘要]

人目

当り

[illegible]

数 量 総 括 表							No. 1
工 事 名	福井橋補修工事			事業区分	道 路 改 良 事 業		
				工事区分	道 路 改 良 工 事		
工種・種別・細別	名 称	規 格	算 式		数 量	単位	摘 要
福井橋							
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
橋梁補修工							
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
低圧注入工法	ひび割れ補修工	リハビリシリンダー工法 同等以上				構造物	
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
左官工法	断面修復工	リハビリ断面修復工 同等以上				構造物	
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
殻運搬・処分	運搬費	小型車				台	
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
	処分費	Con殻（無筋）				式	
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
表面含浸工	下地処理工	サンダーケレン				m2	
			= 56.3	56.0	数量集計表No, 1		
		高圧水洗				構造物	
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
	表面含浸工	プロコンガードシステム 工法同等以上				構造物	
			= 1.0	1.0	数量集計表No, 1		
仮設工							
足場工	足場工設置・撤去	単管足場 安全ネットなし				掛m 2	
			= 64.3	60.0	数量集計表No, 1		
交通管理工	交通誘導警備員B					人日	
			= 6.0	6.0	数量集計表No, 1		

数量集計表

No. 1

工 種	名 称	形状寸法	算 式	数 量	単位	摘 要
福井橋						
橋梁補修工						
低圧注入工法	ひび割れ補修工	リハビリシリンダー工法 同等以上	1.0 =	1.0	構造物	1ひび割れ補修工
左官工法	断面修復工	リハビリ断面修復工 同等以上	1.0 =	1.0	構造物	2断面修復工
殻運搬・処分	運搬費	小型車	1.0 =	1.0	台	2断面修復工
	処分費	Con殻（無筋）	1.0 =	1.0	式	V=0. 2m3
表面含浸工	下地処理工	サンダーケレン	56.3 =	56.3	m2	3表面含浸工
		高圧水洗	1.0 =	1.0	構造物	3表面含浸工
	表面含浸工	プロコンガードシステム工 法同等以上	1.0 =	1.0	構造物	3表面含浸工
仮設工						
足場工	足場工設置・撤去	単管足場 安全ネットなし	64.3 =	64.3	掛m2	4仮設工
交通管理工	交通誘導警備員B		6.0 =	6.0	人	4仮設工

1. ひびわれ注入工 リハビリシリリンダー工法同等以上
補修図より算定

(1) ひびわれ幅 (0.2～3.0mm未満) 深さ200mmと推定

1) 注入延長

$$A = 40.70 + 49.10 \qquad \qquad \qquad = \underline{89.80 \text{ m}}$$

2) 浸透拡散型亜硝酸リチウム40%水溶液 プロコン40相当品

$$W = \frac{1.60}{\text{平均幅}} \times \frac{0.2}{\text{深さ}} \times 89.80 \times \frac{1.25}{\text{密度}} \times \frac{1.3}{\text{ロス率}} \qquad \qquad \qquad = \underline{46.70 \text{ kg}}$$

3) 無機系微粒子注入材 アーマ40相当品

$$W = \frac{1.60}{\text{平均幅}} \times \frac{0.2}{\text{深さ}} \times 89.80 \times \frac{0.975}{\text{密度}} \times \frac{1.5}{\text{ロス率}} \qquad \qquad \qquad = \underline{42.03 \text{ kg}}$$

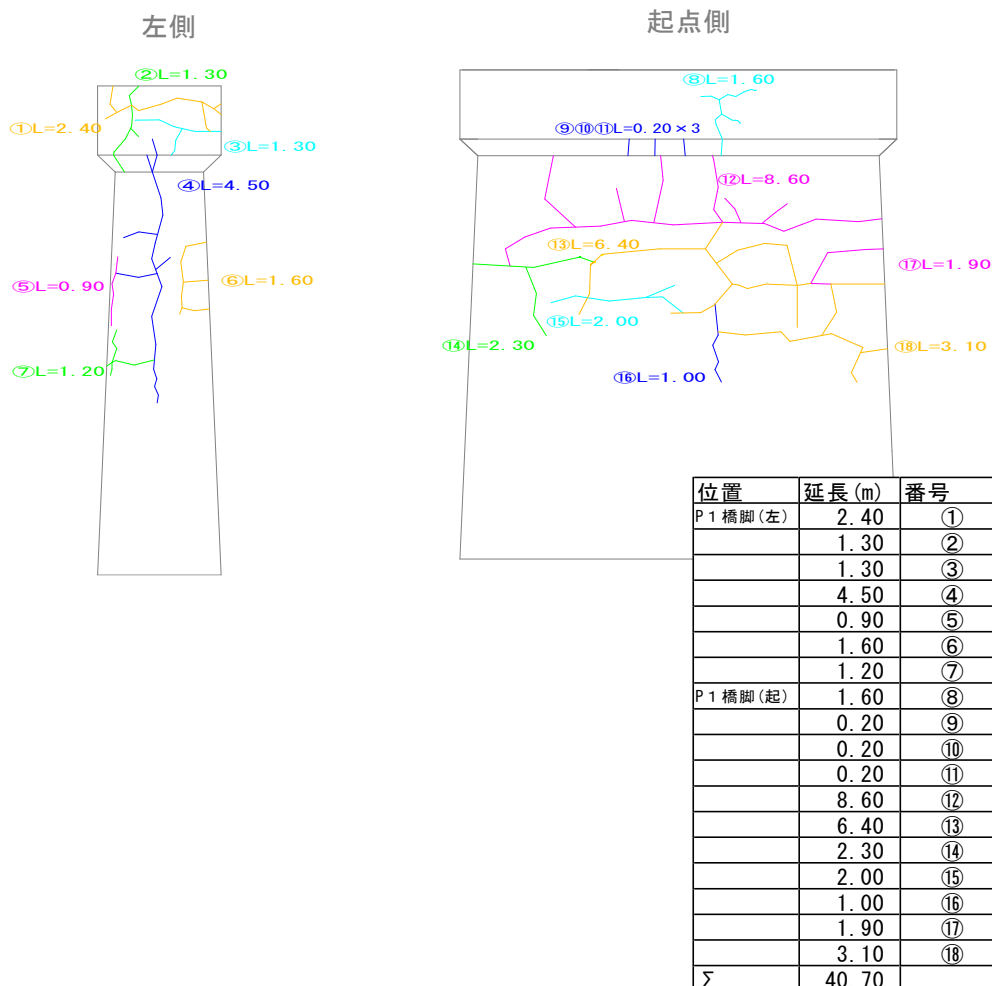
4) シール材 (エポキシ樹脂)

$$W = \frac{0.10}{\text{シール幅}} \times \frac{1.0}{\text{厚み}} \times 89.80 \times \frac{1.74}{\text{密度}} \times \frac{1.37}{\text{ロス率}} \qquad \qquad \qquad = \underline{21.41 \text{ kg}}$$

5) 低圧注入器具

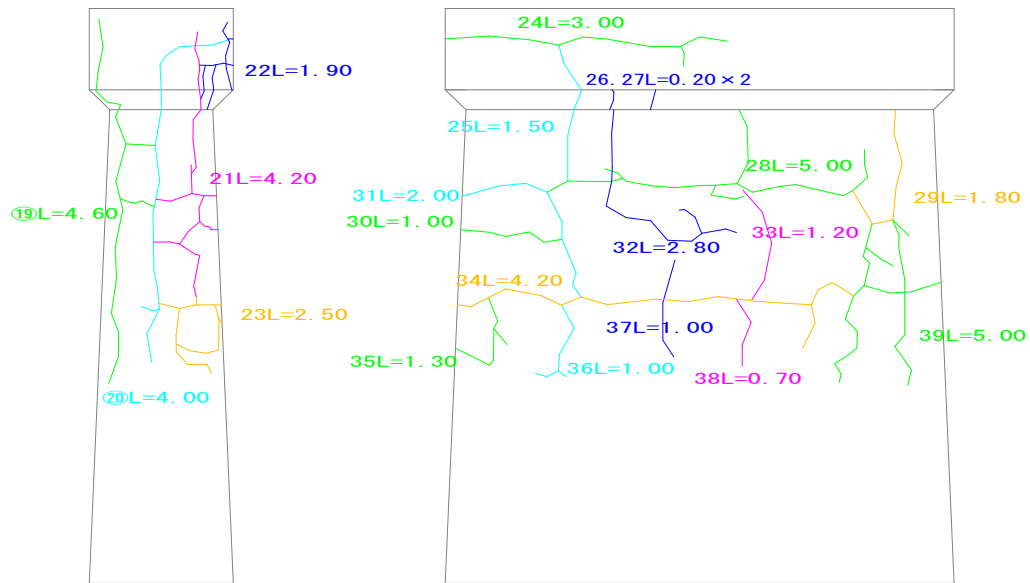
$$N = 89.80 \div 0.25 \qquad \qquad \qquad = \underline{360 \text{ 個}}$$

設置間隔 25cm程度



右側

終点側



位置	延長(m)	番号
P 1 橋脚(右)	4.60	⑱
	4.00	⑳
	4.20	21
	1.90	22
	2.50	23
P 1 橋脚(終)	3.00	24
	1.50	25
	0.20	26
	0.20	27
	5.00	28
	1.80	29
	1.00	30
	2.00	31
	2.80	32
	1.20	33
	4.20	34
	1.30	35
	1.00	36
	1.00	37
	0.70	38
	5.00	39
Σ	49.10	

2. 断面修復工（左官工法） リハビリ断面修復工法同等以上

鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有

補修図より算定

1) 修復面積

修復深さ D=30mm

$$A = (4.35 \times 0.70 + 1.30 \times 0.70) \times 2 = \underline{7.91 \text{ m}^2}$$

2) 断面修復材

ポリマーセメントモルタル

$$V = 7.91 \times 0.03 = \underline{0.237 \text{ m}^3}$$

深さ30mm

$$V = 0.24 \times 1.18 = \underline{0.280 \text{ m}^3}$$

ロス率

3) 亜硝酸リチウム水溶液混入量

プロコン40相当品

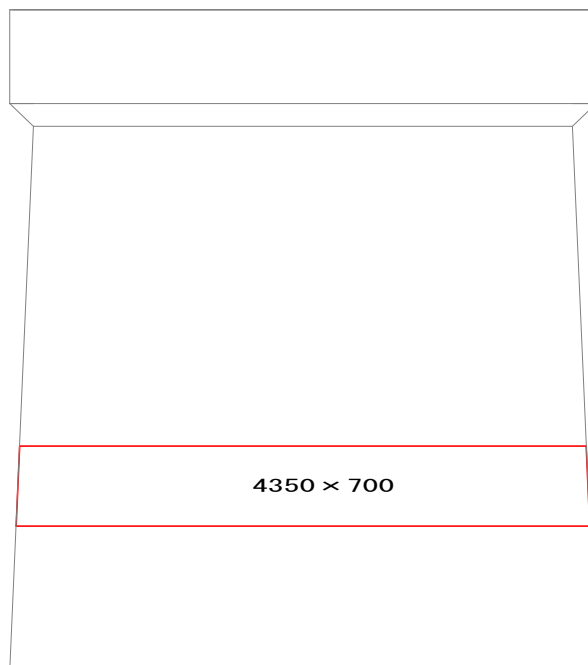
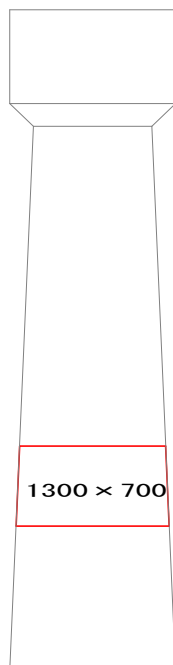
$$W = 0.280 \times 5.5 \text{ kg/m}^3 = \underline{1.540 \text{ kg}}$$

3) 殻処分運搬工

無筋コンクリート殻、上記断面修復材数量より

$$V = 7.91 \times 0.03 = \underline{0.237 \text{ m}^3}$$

$$W = 0.237 \times 2.35 = \underline{0.56 \text{ t}}$$



亜硝酸リチウム混入量の算定（断面修復工）

Clの原子量 ： 35.453

LiNO₂の式量 ： 52.951

コンクリート中の塩化物イオン量S（Cl）

$$S = 1.49 \text{ kg/m}^3$$

塩化物を抑制するための有効なNO₂/Clのmol比を 1.0 とする。

$$\text{Clの式量} = 35.453$$

Clのコンクリート中のmol数を k₂とすると

$$k_1 = 1.49 / 35.453 = 0.04203 \text{ mol}$$

そのうちClのmol数を k₂とすると

$$k_2 = k_1 = 0.04203 \text{ mol}$$

$$\text{亜硝酸リチウムLiNO}_2\text{の式量} = 52.951$$

NO₂/Clのmol比を1.0とするため、亜硝酸リチウムの必要mol数 k₃は

$$k_3 = k_2 \times 1.0 = 0.04203 \text{ mol}$$

ポリマーセメントモルタル1m³あたりの亜硝酸リチウムの必要量をXとすると

$$\begin{aligned} X &= k_3 \times 52.951 \\ &= 0.04203 \times 52.951 = 2.2 \text{ kg/m}^3 \end{aligned}$$

使用する亜硝酸リチウム水溶液の濃度を40%とする場合、（製品40%水溶液）

ポリマーセメントモルタル1m³あたりの亜硝酸リチウム水溶液（PSL-40）

の混入量X'は

$$\begin{aligned} X' &= X / 0.4 \\ &= 2.2 / 0.4 = 5.50 \text{ kg/m}^3 \end{aligned}$$

3. 表面含浸工 プロコンガードシステムS同等以上

1) 面積

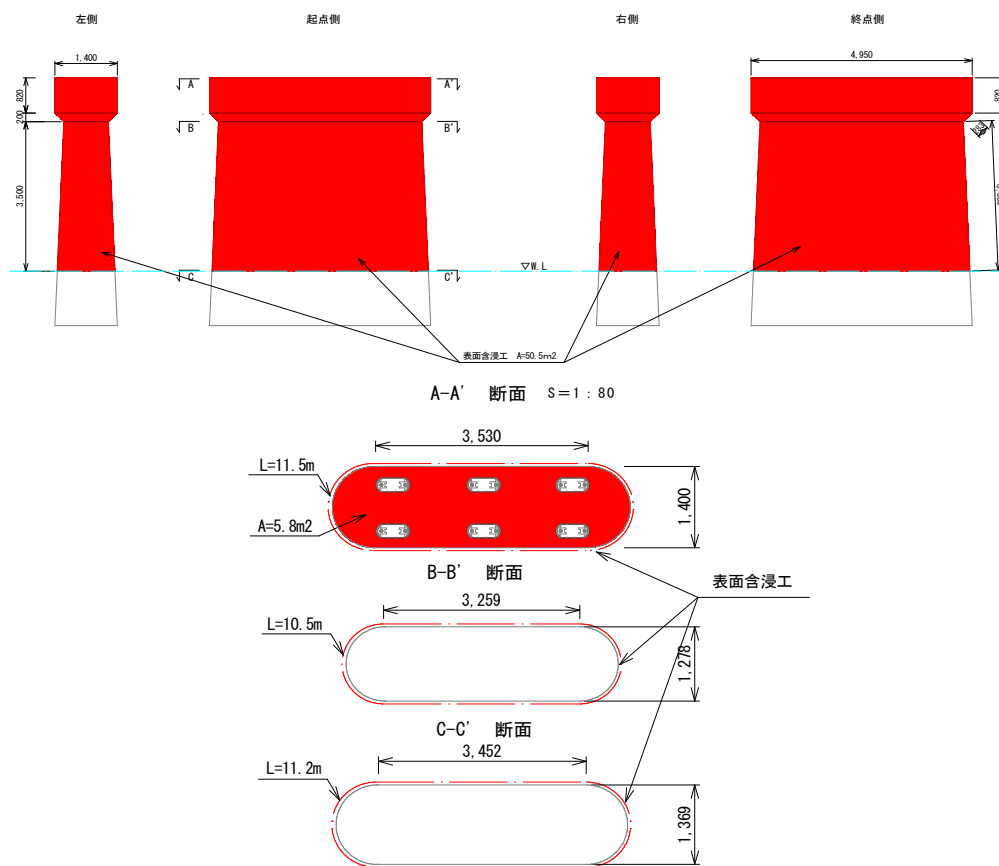
$$a1 = 11.50 \times 0.82 = 9.4 \text{ m}^2$$

$$a2 = (11.5 + 10.5) / 2 \times 0.283 = 3.1 \text{ m}^2$$

$$a3 = (10.5 + 11.2) / 2 \times 3.503 = 38.0 \text{ m}^2$$

$$a4 = 5.80 = 5.8 \text{ m}^2$$

$$\Sigma A = 56.3 \text{ m}^2$$



4. 仮設工

単管足場工

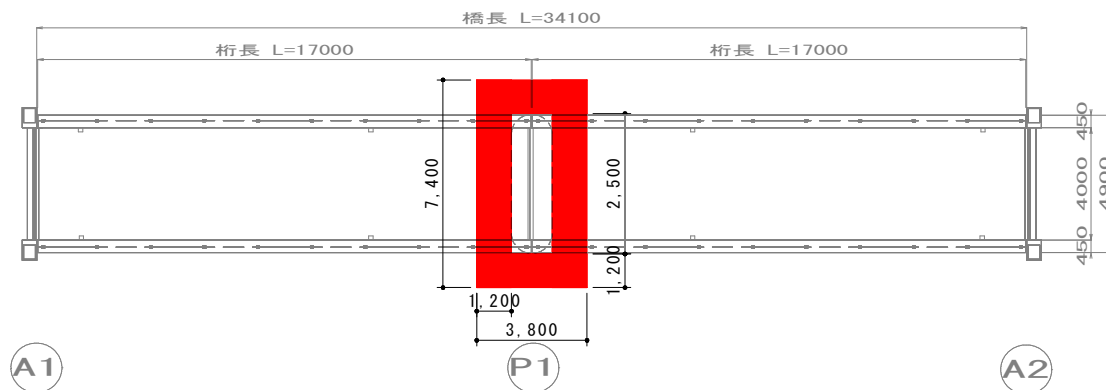
$$A = 2.0 \times (3.8 + 2.5) \times 5.10 = 64.3 \text{ 掛m}^2$$

交通誘導員

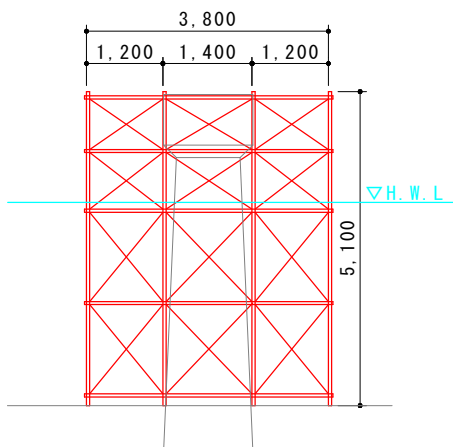
$$N = 2.0 \text{ 日} \times 3.0 = 6 \text{ 人/日}$$

※足場設置・撤去 各1日

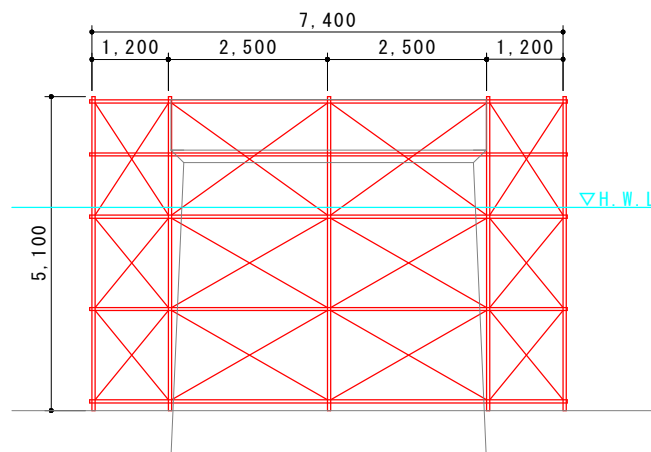
橋面平面図 S=1:100



側面図 S=1:100



正面図 S=1:100



特 記 仕 様 書

この仕様書は、下記の工事の施工に適用する。

工 事 名 : 福井橋補修工事
工 事 場 所 : 相生市 若狭野町福井 地内

総 則

第 1 条 適用する図書

本工事の施工にあたっては、「設計図書」によるほか、以下の図書及び本特記仕様書によらなければならない。

土木工事共通仕様書	〔令和6年4月一部改訂〕	(兵庫県県土整備部)
土木工事施工管理基準	〔令和5年10月一部改訂〕	(兵庫県県土整備部)
土木工事請負必携	〔令和6年4月一部改訂〕	(兵庫県県土整備部)
小型構造物標準図集	〔令和7年4月一部改訂〕	(兵庫県県土整備部)

第 2 条 契約工期

契約工期については、土・日曜日、祝日、年末年始休暇等を含んでいる。

第 3 条 特定建設作業の届出

騒音規制法、振動規制法及び環境の保全と創造に関する条例による特定建設作業を行うときは、特定建設作業実施届出書を提出しその写しを監督員に提出しなければならない。

第 4 条 コリンズ (CORINS) への登録

請負者は、受注時又は変更時において工事請負代金額が500万円以上の工事について、工事实績情報サービス (CORINS) に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事实績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に、訂正時は適宜登録機関に登録をしなければならない。

登録対象は、工事請負代金額５００万円以上の全ての工事とし、受注・変更・完成・訂正時にそれぞれ登録するものとする。

なお、変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみ変更の場合は、原則として登録を必要としない。また、登録機関発行の「登録内容確認書」が受注者に届いた際には、速やかに監督員に提示しなければならない。

なお、変更時と工事完成時の間が１０日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できる。

第５条 現場の管理

- 1 本工事の施工にあたっては、建設業法及び労働保険徴収法の規定により建設業の許可票及び労災保険関係成立票を現場内に掲示しなければならない。

建設業の許可票				
商号又は名称				
代表者の氏名				
監理主任	技術者の氏名		専任の有無	
	資格者	資格者証 交付番号		
一般建設業又は 特定建設業の別				
許可を受けた建設業				
許可番号				
許可年月日			令和 年 月 日	

第 6 条 施工体制台帳の作成

- 1 請負者は、公共工事入札契約適正化法に基づき、受注者が下請契約をおこなった場合、下請金額によらず施工体制台帳及び施工体系図を作成し、工事現場に備えるとともにその写しを監督員に提出するものとする。

このとき施工体制台帳は様式例－１及び様式例－２、施工体系図は様式例－３を参考として作成するものとする。

また、請負者は様式例－４を参考に工事担当技術者の施工体系図を作成して、監督員に提出するものとする。工事担当技術者の施工体系図には、元請負業者の監理技術者及び専門技術者並びに下請負業者の主任技術者の顔写真、氏名、生年月日、所属会社名等を記載するものとする。

- 2 請負者は、建設業法施行規則第１４条の２第２項に基づく添付書類を施行体制台帳とともに監督員に提出するものとする。

第 7 条 建設廃棄物の処理

- 1 本工事は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「資源の有効な利用の促進に関する法律」及び「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な処置を講ずることとする。

1) 再資源化等をする施設の名称及び所在地

特定建設資材廃棄物の種類	施 設 の 名 称	所 在 地
コンクリート殻（無筋）	(株)金海興業	相生市竜泉町315番1外8筆

上表については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。

受注者は、兵庫県登録施設から搬出先施設を選定し、共通仕様書に基づき施工計画書に含め、監督員に提出しなければならない。

なお、請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

- 2 請負者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督員に報告するものとする。

なお、書面は再生資源利用〔促進〕計画書（実施書）を兼ねるものとする。

- ・再資源化等が完了した年月日
- ・再資源化等をした施設の名称及び所在地
- ・再資源化等に要した費用

- 3 工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督員と協議するものとする。

第8条 処分量の検収

- 1 特定建設資材等産業廃棄物の処理にあたっては、原則として再資源化施設に搬出するものとし、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の許可を持つ計量器を有する処理業者に委託し、兵庫県のマニフェストシステム実施要領に従って処理するものとする。

請負者は、処分が完了した後、処理業者が検収したマニフェスト票（D票及びE票）の写しを監督員に提出すること。

なお、これにより難しい場合は、監督員と協議し承諾をうけるものとする。

（原則として設計計上数量を限度とし、上記検収数量が設計数量に満たない場合は変更の対象とする。）

- 2 請負者は、産業廃棄物の処理にあたり、処理一覧表〔種類、日付、車両番号、処分量、処理施設〕を作成し、搬出、搬入、処理施設の処理状況を写真記録し監督員に報告するものとする。

ただし、処理状況写真については、報告が工事竣工後となってもやむを得ないものとする。

第9条 建設副産物対策

「兵庫県における建設リサイクル行動計画」（平成10年6月策定）の推進を図るため、「再生資源の利用促進に関する法律（リサイクル法）」（平成3年10月）に基づく「再生資源利用〔促進〕計画書（実施書）」を作成し提出するものとする。

- ・工事着手時 : 再生資源利用〔促進〕計画書
- ・工事完成時 : 再生資源利用〔促進〕実施書

第 10 条 工事の着手

- 1 河川占用は、光都土木事務所と設計調整中であり、完了後は監督員より指示する。
よって、監督員の指示があるまでは工事着手を行ってはならない。
また、工事については令和8年11月1日以降に着手すること。

第 11 条 交通誘導員の配置

- 1 交通整理員については、下表のとおり計上しているが、道路管理者及び所轄警察署の打合せの結果又は、条件変更等に伴い員数に増減が生じた場合は、設計図書に関して監督員と協議するものとし、設計変更の対象とする。なお、警備日報と集計表を監督員に提出しなければならない。

配置場所	交通誘導員	編成	昼夜別	交替要員の有無
相生市 若狭野町福井 地内	3 名/日	交通誘導員 B 6人	昼	無

なお、交通誘導員 A，B の定義はつぎのとおり。

交通誘導員 A： 警備業者の警備員（警備業法第 2 条第 4 項に規定する警備員をいう。）で、交通誘導警備業務（警備員等の検定等に関する規則第 1 条第 4 号に規定する交通誘導警備業務をいう。）に従事する交通誘導警備業務に係る 1 級検定合格警備員又は 2 級検定合格警備員

交通誘導員 B： 警備業者の警備員で、交通誘導員 A 以外の交通の誘導に従事するもの

2 交通誘導員の有資格

資格	資格要件
1・2級交通誘導警備検定合格者	公安委員会が学科及び実技試験を行って、交通誘導警備に関して専門的な知識及び技能を有すると認めた者。
交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員	・警備業法における警備員指導教育責任者資格者証の交付を受けている者。 ・警備業法における指定講習を修了した者。 ・警備業法施行規則における基本教育及び業務別教育（警備業法第2条第1項第2号の警備業務）を既に受けている者で、交通誘導に関する警備業務に従事した期間（実務経験）が1年以上である者。

3 請負者は、交通誘導員として交通誘導警備検定合格者を配置した場合、交通誘導警備検定合格証（写し）を監督員に提出するものとする。

4 請負者は、交通誘導員として交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有する警備員を配置した場合、交通誘導に関し専門的な知識及び技能を有すると確認できる次の資料の何れかを監督員に提出するものとする。

- ・警備員指導教育責任者資格者証（写し）
- ・指定講習終了証明書（写し）
- ・警備業法施行規則 第26条第2項に定める基本教育、及び同条第2項、第3項に定める業務別教育（警備業法第2条第1項第2号の警備業務）を受講したことを証明する警備員名簿及び教育実施状況等の写し、及び交通誘導に関する警備業務に従事した期間（実務経験）が1年以上であることを証明する書類。

第 12 条 関係機関との調整

請負者は、工事の施工に際して地元自治会ほか関係機関との調整を十分に図り工事施工計画等について、工事説明会の開催や工事説明通知文書を配布するなど理解を求めること。

第 13 条 排出ガス対策型建設機械の使用

本工事において下表に示す建設機械を使用する場合は、排出ガス対策型建設機械指定要領に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。

なお、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、「建設技術評価制度」又は「民間開発建設機械技術の審査証明事業」により評価された「排出ガス浄化装置」を装着した建設機械を使用することで同等とみなす。

ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとし設計変更の対象とする。

上記において、「これにより難しい場合」とは、請負者の都合で調達できない場合を含むものとする。

なお、使用する建設機械が排出ガス対策型建設機械であることを確認できる写真を撮影し、完成書類として提出するものとする。

機 種	備 考
・バックホウ ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式、溶接兼用機含） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの。 ：油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引拔機、油圧式杭圧入・引拔機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ロードローラ ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力 7.5kw 以上、260kw以下）を搭載した建設機械

第 14 条 安全管理

1 安全・訓練等の実施

本工事施工に際し、現場に即した安全・訓練等について、工事着手後、原則として作業員全員の参加により 1 月当たり半日以上の時間を割当て、下記の項目から実施内容を選択し、安全・訓練等を実施すること。

- (1) 安全活動の動画等視覚資料による安全教育
- (2) 本工事内容等の周知徹底
- (3) 土木工事安全施工技術指針等の周知徹底
- (4) 本工事における災害対策訓練
- (5) 本工事現場で予想される事故対策
- (6) その他、安全・訓練等として必要な事項

2 安全訓練等に関する施工計画の作成

施工に先立ち作成する施工計画書に、本工事の内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画書を作成し、監督員に提出すること。

3 安全訓練等の実施状況報告

安全・訓練等の実施状況を工事報告（工事月報）に記載し報告すること。

第 15 条 熱中症対策

- 1 本工事施工に先立ち作成する施工計画書に、「熱中症の早期発見のための体制整備」「熱中症の重篤化を防止するための処置」の実施要領を作成し監督員に提出すること。また、関係作業員への周知を行うものとする。

第 16 条 その他

- 1 本工事施工にあたり、現場代理人は携帯電話等を常時携帯し、絶えず連絡が出来る体制をとるものとする。
- 2 請負者は、工事期間中において工事場所周辺道路等の維持管理を適切に行い付近住民等から苦情等がないよう最善の努力をするものとする。

- 3 工事着手前には必ず現地踏査・現地測量を行い、設計との照査を行い測量・施工計画書・材料確認の必要書類を監督員に提出し了解を得なければならない。尚、着工前の設計照査・地元要望等により設計変更が生じる場合は必ず監督員と協議を行うこと。
この時、変更設計図面・数量表は請負者において作成するものとする。
- 4 請負者は、本工事に伴う提出書類を土木工事請負必携のほか、「土木工事提出書類一覧表」により該当する項目について整理を行い提出しなければならない。
- 5 請負者は、本工事の施工に際して、第三者災害に対する保険（土木工事保険等）に加入し、その写しを速やかに監督員に提出しなければならない。
- 6 請負者は、本工事の施工に際して、その工事に携わる下請の事業主と労働者の意識の向上を図るため、現場事務所や工事現場の出入口など見易い場所に「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」標識を掲示するものとする。
- 7 請負者は、本工事の施工に際して、労働基準法第104条の2（労働基準法施行規則第57条）労働基準法の適用事業となったとき（業種を問わず労働者を使用するに至ったとき）に、所轄労働基準監督署長に適用事業報告をしなければならない。
- 8 請負者は、本工事に関する支障物件（電柱や地下埋設物など）の移転の時期等を監督員と協議するとともに関係機関と調整するものとする。
- 9 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならず、保険契約を締結したのち、その証券等を発注者に提示するものとする。

第 17 条 疑 義

本件特記仕様書に疑義が生じた場合は、発注者、請負者で協議し解決するものとする。

公共工事提出書類一覧表

項目	提出期限	提出日	備考
1 契約時			
①工事施工計画、下請負人通知書	契約後 5 日 以		
②現場代理人、主任技術者経歴書	同上		免許の名称、学歴又は専攻学科、実務経験、登録番号
③工程表（バーチャート）	同上		
④建設廃棄物処理計画書	契約時		
⑤リサイクル法第 13 条に基づく書面	同上		
⑥建設業退職金共済制度	同上		建設業退職金共済組合証紙購入確認書の写し
2 工事着手前			
ア 施工計画書（当初、変更）	工事着手前		監督員は施工の安全性や法令、規定を遵守し適切な施工が履行できるものであるかを確認し、疑義がある場合にのみ指導・助言する。
①工事概要			工事名、路線及び河川名等、工事場所、工期、請負金額、工事内訳（主たる工種を記載し、契約設計図書の工事内訳書の記載は求めない） ※図面等は不要
②計画工程表			工事費構成比、工程曲線
③現場組織表			現場代理人及び主任技術者等、各管理者（工程、出来形、品質、写真）、各係（資材、労務、機械、事務）及び社内検査員
④指定機械			機械名、台数、製造社名、規格、環境対策等 施工時に使用した写真により確認を行い、施工計画書には記載事項の根拠（車検証、カタログ、写真等）の添付は不要
⑤主要船舶・機械			機械名、台数、規格、使用工種等 指定機械に記載した機械も主要工種に使用するものは記載
⑥主要資材			JIS規格及びJIS工場の確認、品質・規格の確認
⑦施工方法			全体フローに示す工種は工事内訳書レベル2の範囲 施工方法の記載は工事内訳書レベル2又はレベル3までの範囲 任意仮設については詳細資料を添付。
⑧施工管理計画			工程管理、出来高管理、品質管理及び写真管理について、 管理項目、管理時期、管理頻度、記録方法、配慮事項を記載 段階確認、立会確認の必要な項目、実施予定を記載 コンクリート、アスファルトの運搬経路図(経路、時間を記載)
⑨安全管理			安全衛生管理の組織体制、安全衛生管理に対する実施計画 ※記録様式の添付は不要
⑩緊急時の体制及び対応			緊急時の連絡体制、災害時の体制 ※緊急資材の調達先や運搬経路は不要
⑪交通管理			運搬時間に制限がある資材（Con、As）の運搬経路と時間 一般車両、歩行者等に対する交通管理 工事車両に対する安全管理や輸送計画 過積載防止に向けた体制や確認方法等 各種許可申請の有無と許可書の提出方法 ・道路使用許可書、特殊車両許可書の写し 交通誘導員の配置図、保安施設の配置図及び主要資材の運搬経路位置図

公共工事提出書類一覧表

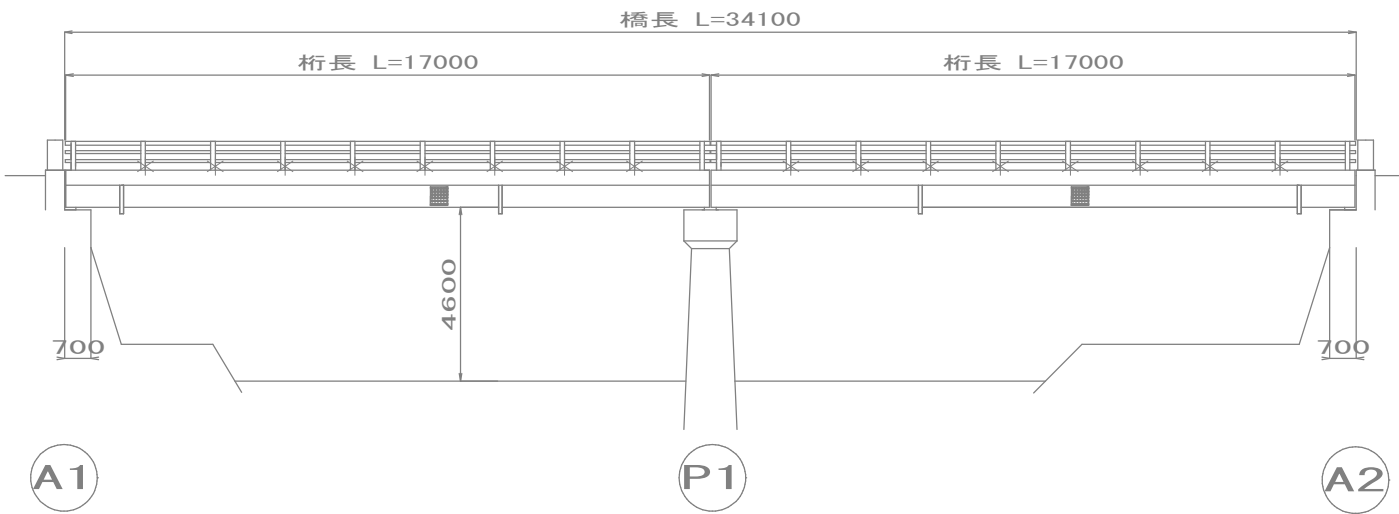
項目	提出期限	提出日	備考
⑫環境対策			騒音、振動、濁水、土埃等の配慮事項。周辺住民に対する対応
⑬現場作業環境の整備			現場事務所、休憩所、作業現場及び現場周辺の美化 土日休日作業に対する取組方針
⑭再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法			建設副産物収集運搬処理の委託及び最終処分における処分量の確認方法、再生資源の有効活用に向けた取り組み 添付書類 ・再生資源利用計画書 ・再生資源利用促進計画書 ・産廃業者との契約書及び産廃業者の許可書の写し
⑮その他			
1. 特定建設作業の届出			受付印のある写し
2. 工事カルテ（当初）	契約10日以内に登録		
3. 土木工事保険等			第三者災害に対する保険
4. 労働基準法施行規則第57条適用事業報告			受付印のある写し 工事毎で報告がない場合は会社としての適用事業報告とする
5. 労働安全衛生法第88条届出			受付印のある写し
イ 使用材料確認願	工事着手まで		目次、インデックスを付ける。
①工事使用材料（当初、変更）			
②土木工事承諾願			当初設計に適合しないもの、承諾の必要な材料を使用する場合
ウ 特記仕様書関係必要書類			
①工事カルテ（変更、完成）	契約、完成10日以内		
②施工体制台帳及び施工体系図	下請け契約後速やかに		※R2.10.1以降契約分については「社会保険の加入に関する下請指導ガイドライン」による。 下請け契約書（注文書、請書）の写し
③交通誘導員の資格者書及び経歴	工事着手まで		
④事前測量成果報告書	工事着手まで		
3 施工中に提出する書類			
ア 段階確認書			自主検査の場合、検測状況写真添付
イ 立会願い			
ウ 休日作業届			
エ 安全訓練等報告	毎月提出		活動内容の具体的議事録、写真添付
オ 工事履行報告書(工程管理報告書)	同上		計画工程と毎月の出来高数値により工程管理を行う、写真添付
カ 工事打合せ簿	打合せ後7日以内		
キ 施工承諾図			
ク 変更施工計画書			変更施工計画書は追加式とし先の施工計画書は変更しない
ケ 変更計画工程表			変更契約以降、工事費構成比、出来高比も変更となるため注意
4 工事検査時			
ア 社内検査報告書及び状況写真			
イ 工程管理			計画工程と毎月の出来高数値により工程管理を行う
①履行報告書			
②工程管理表			
③月間工程表			
④写真			
ウ 出来形管理			
①出来高数量報告書			契約数量に対する出来高数量の対比（同様の数値基準による）
②出来形管理表			略図、設計値、実測値、差及び規格値等
③出来形管理図（工程能力図）			上記管理表を図示したもの（側点数10点未満は不要）

公共工事提出書類一覧表

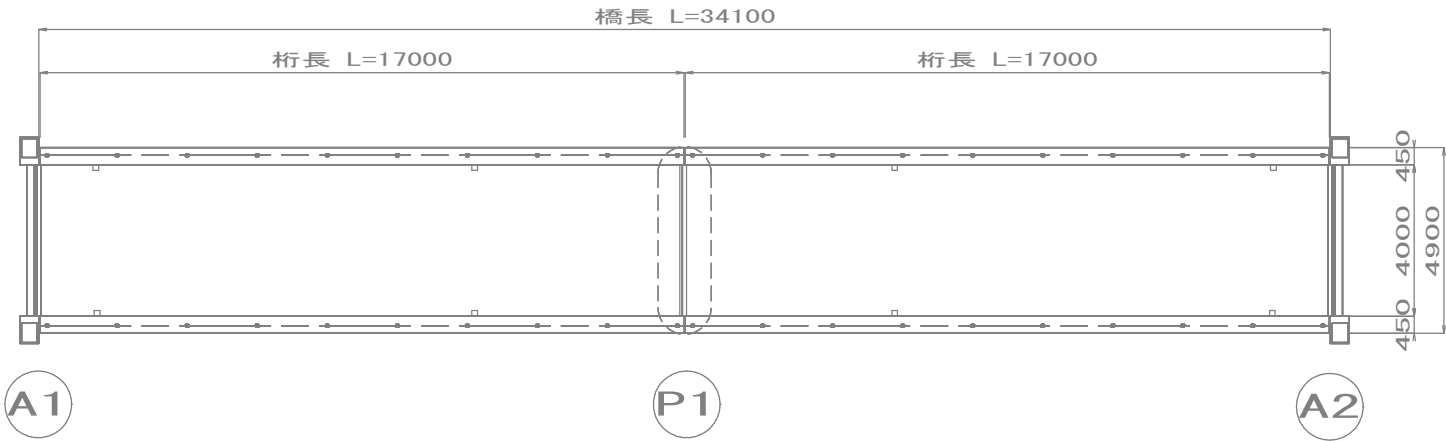
項目	提出期限	提出日	備考
④出来形図			設計値及び実測値（括弧書き又は赤書き）を記載
エ 品質管理			実施した試験等の総括（一覧）表
①コンクリート品質管理表			打設日、打設量、空気量、スランプ、圧縮強度等
・コンクリート試験成績表			
・塩分測定結果表			
・テストハンマー試験成績表			
②アスファルト舗装品質管理表			厚さ、密度、As量等
・コア厚測定管理図表			
・アスファルト混合物温度管理表			
・抽出試験成績表			
③土工関係			試験表等
・土の締め固め試験成績表			
・現場密度試験成績表			
・CBR試験成績表			
④その他			鋼材ミルシート、注水試験等
オ 工事写真管理			
①着工前、完成後の対比写真			
②測点の記入			
③出来高寸法の記入、検尺の判読			
④不可視部分の確認			
⑤工事標示板、ヘルメット着用			
カ 安全管理			
①安全協議会の開催			
②安全教育（月1回）の実施			活動内容の具体的議事録、写真添付
③新規入場者			新規入場者の安全教育実施資料の提出
④現場内安全パトロール等の実施			現場内点検、パトロール、KY活動
キ 施工管理			
①段階確認書			項目、写真、結果
②立会報告書			内容、写真、結果
③工事打合せ簿、指示書			
ク その他			
①建設廃棄物の処理			提出書類 ・再生資源利用実施書 ・再生資源利用促進実施書 ・産業廃棄物管理表（マニフェストD票及びE票） ・産業廃棄物処理一覧表（種類、日付、車両番号、処分量、運搬受託者名、処分受託者名） ・産業廃棄物の処理状況の写真添付（搬出、搬入、処理施設） ・建設発生土処理一覧表（種類、日付、車両番号、処分量、運搬受託者名、処分受託者名）
②交通誘導員			警備日報及び集計表
③排出ガス対策型建設機械			排出ガス対策型建設機械であることを確認できる写真添付
④特定自主検査記録表			
⑤重点点検表			
⑥建設業退職金共済制度の確認			共済証紙受払簿、退職金共済手帳、被保険者の就労状況報告書、建退共辞退届 建退共制度適用事業主工事現場標識の掲示状況写真
⑦建設業許可及び労災保険関係成立 票の現場内掲示			現場内掲示写真の添付
⑧地元対応書類			
⑨納品伝票一覧			出来高で確認できない伝票の添付

福井橋 一般図

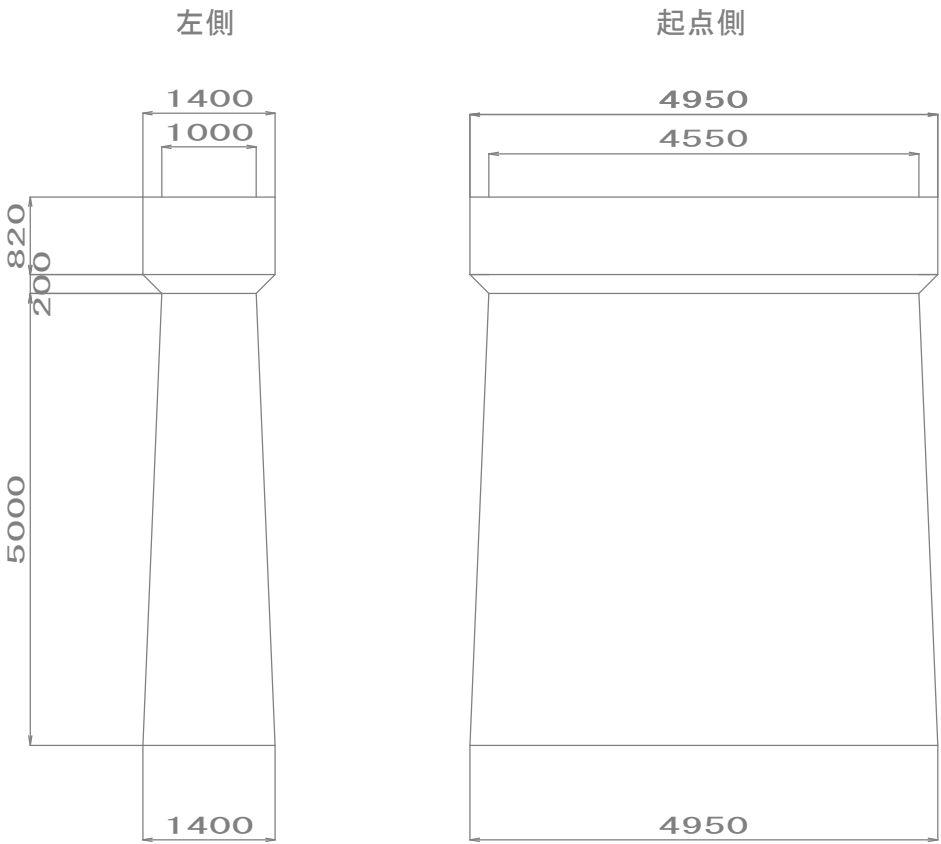
側面図 S=1:200



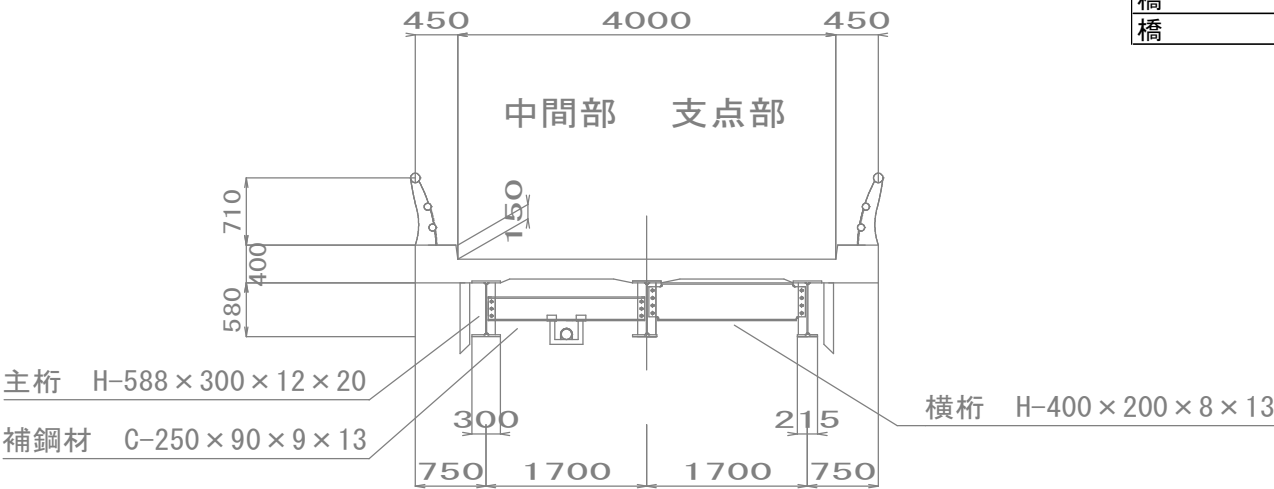
橋面平面図 S=1:200



P1橋脚正面図 S=1:80



標準断面図 S=1:80

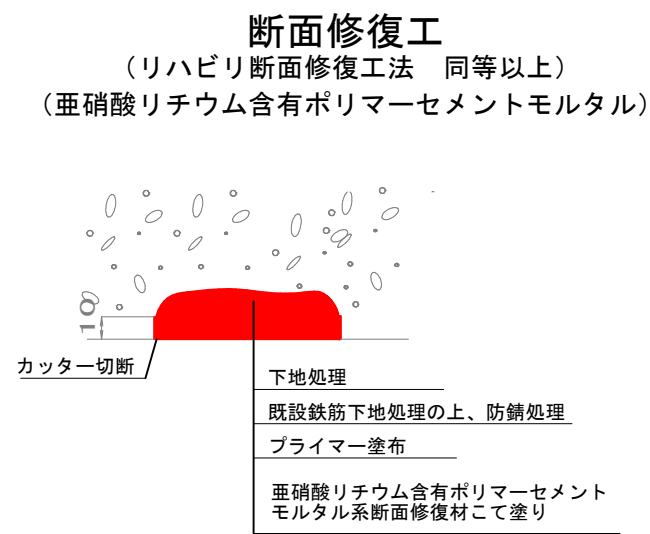
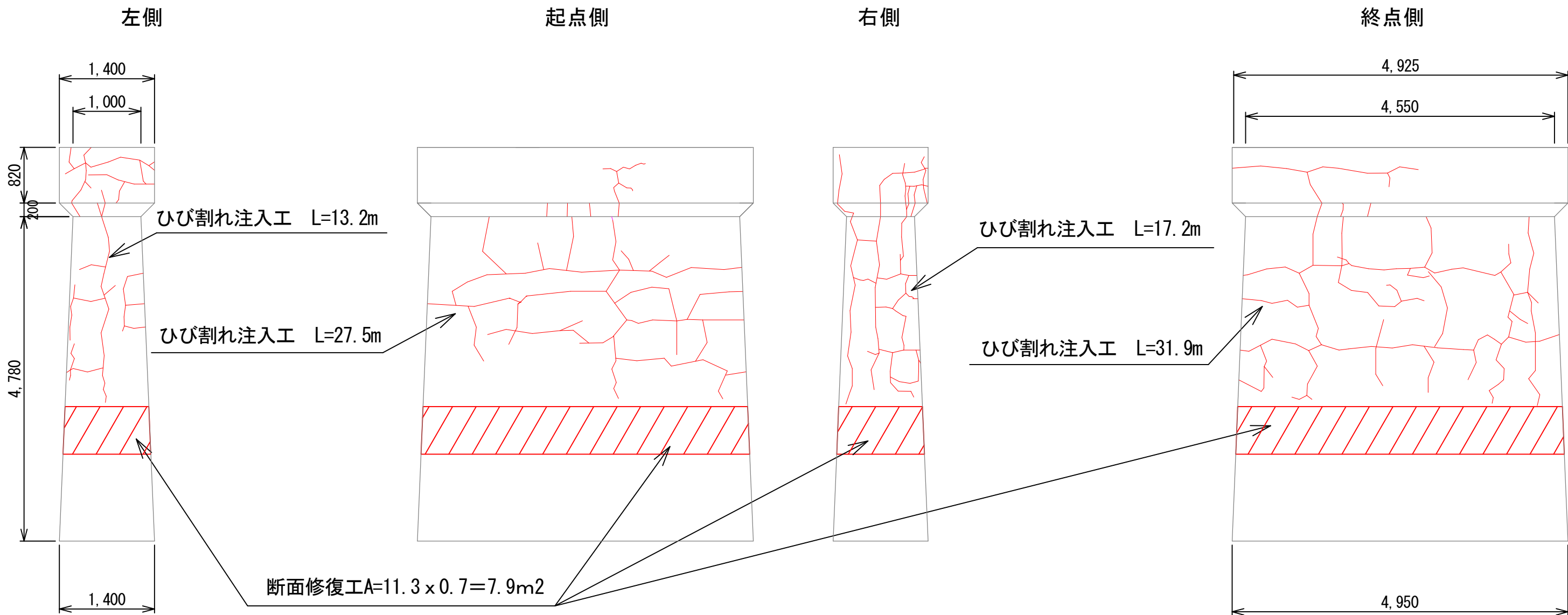


橋梁諸元	
橋名	福井橋
路線名	市道福井東線
架設年次	1976年
河川名	二級河川矢野川
橋種	道路橋
活荷重	T-14
橋長	34.1m
径間数	2径間
支間長	16.45m
有効幅員	4.00m
全幅	4.90m
上部工	2径間単純鋼H形鋼橋
橋台	重力式橋台
橋脚	逆T式橋脚

令和8年度 道路橋梁維持管理事業	
福井橋補修工事	
相生市 若狭野町福井 地内	
橋梁一般図	
縮尺	図示
相生市 建設農林部 都市整備課	

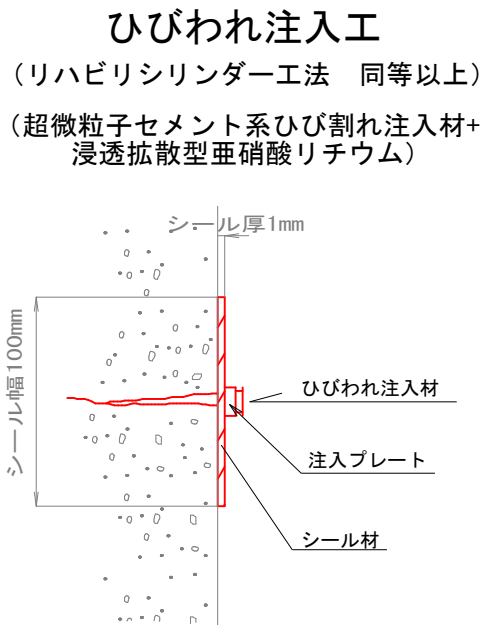
福井橋 補修図 (1)

【ひび割れ注入工、断面修復工】 S=1:60



※ 施工手順

- 1 カッター切断
- 2 コンクリートはつり
- 3 下地処理
- 4 鉄筋防錆処理
防錆材は、亜硝酸リチウム含有
ポリマーセメントペーストを使用
- 5 プライマー塗布
- 6 断面修復材にて塗り
断面修復材は、亜硝酸リチウム含有
ポリマーセメントモルタルを使用



※ 施工手順

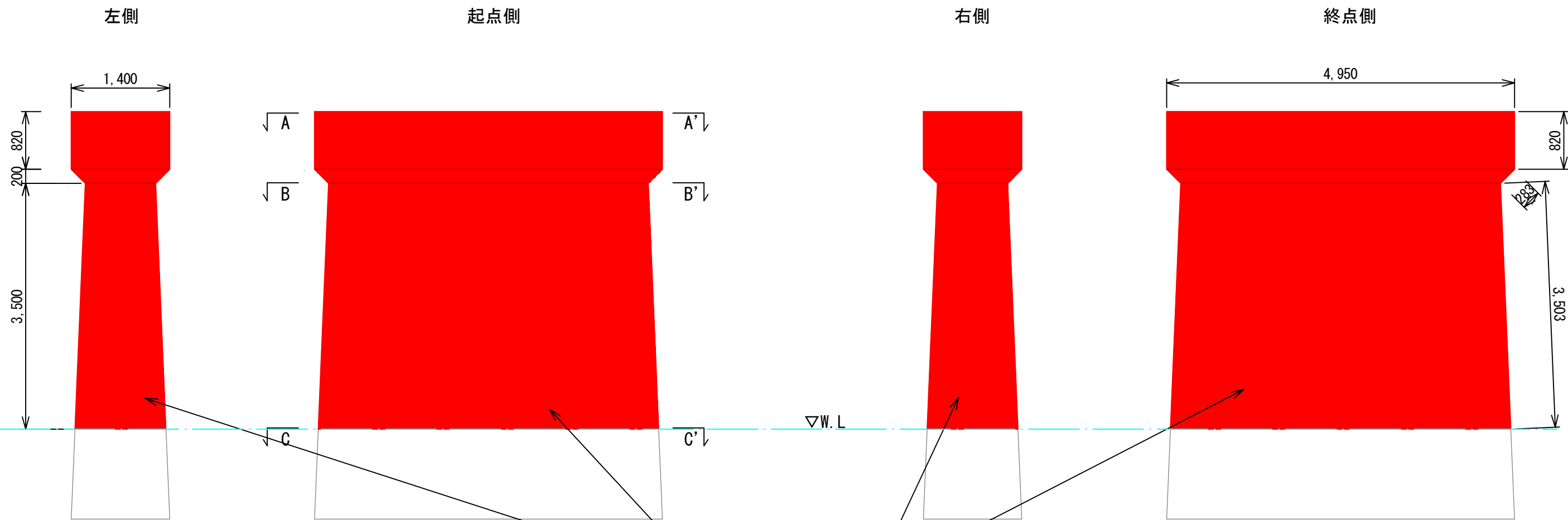
- 1 表面処理
- 2 注入プレート貼付
- 3 シール材塗布 (ポリマーセメントモルタル)
- 4 注 入 (亜硝酸リチウム)
- 5 注 入 (超微粒子セメント系注入材)
- 6 養 生
- 7 仕上げ

注 1) ひび割れ注入箇所は、施工前に範囲・場所を確認し決定する事。
注 2) ひび割れ注入後は、サンダーで仕上げを行う事。
注 3) 断面修復前にひび割れ注入を行う事。

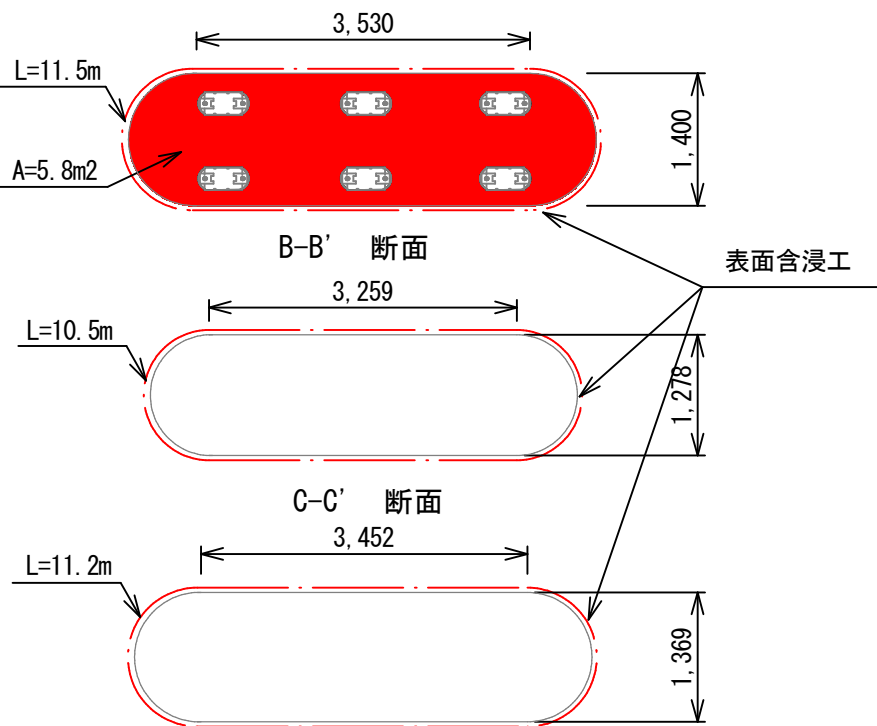
令和8年度 道路橋梁維持管理事業			
福井橋補修工事			
相生市 若狭野町福井 地内			
橋 梁 補 修 図 (1)			2
縮 尺	図 示		4
相生市 建設農林部 都市整備課			

福井橋 補修図 (2)

【表面保護工】S=1:60

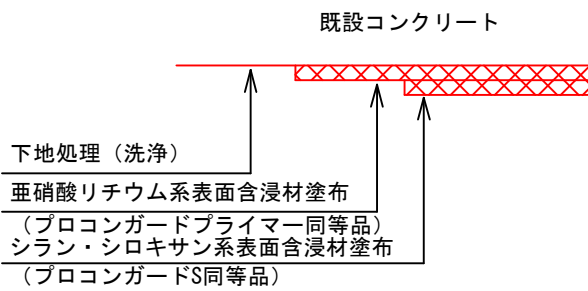


A-A' 断面 S=1:80



表面含浸工 A=56.3m²

表面含浸工
(プロコンガードシステムS 同等以上)



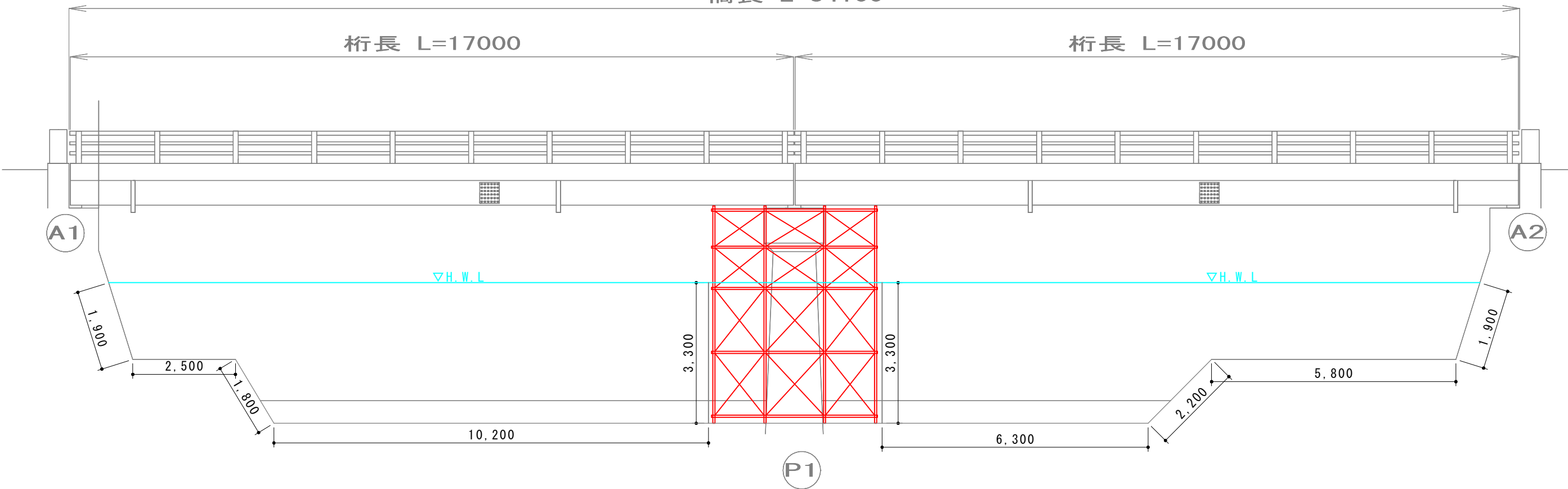
注記
1. 各寸法については、工事に先立ち再計測を必ず実施して工事に反映すること。
2. コンクリート表面の異物や劣化部は、電動工具(ディスクサンダー)等で除去する。
3. 施工時は、気温に応じた打設時の温度及び養生時の温度を適切に管理し、施工時に
応じた養生を十分行うものとする。

令和8年度 道路橋梁維持管理事業			
福井橋補修工事			
相生市 若狭野町福井 地内			
橋 梁 補 修 図 (2)			3 <

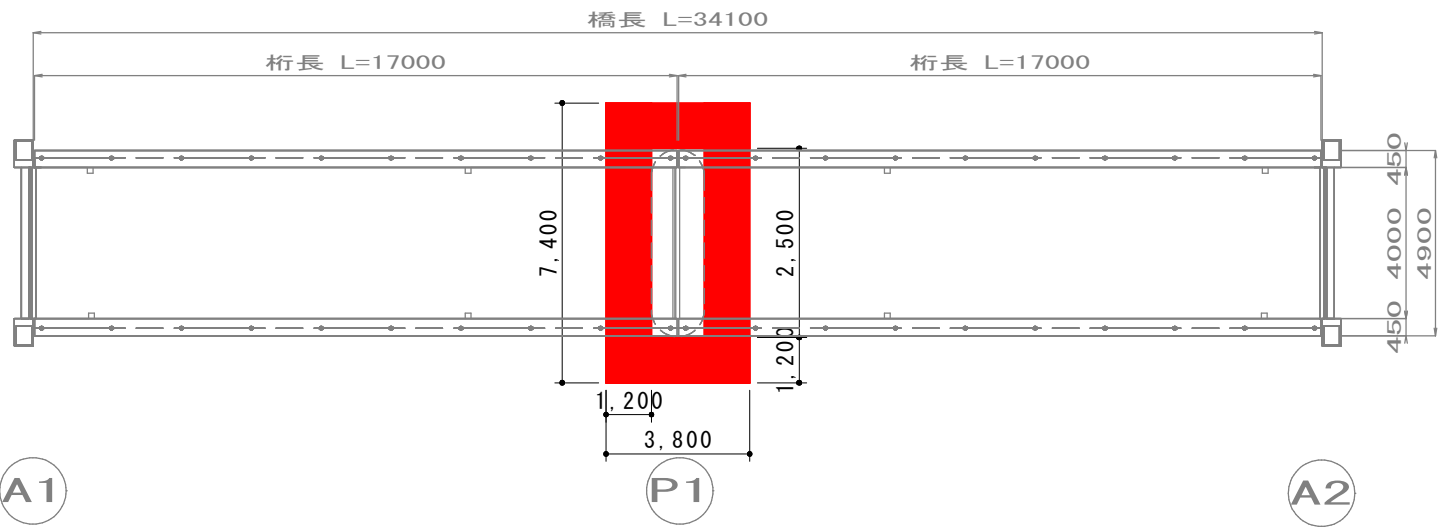
足 場 工（参考図）

側面図 S=1:100

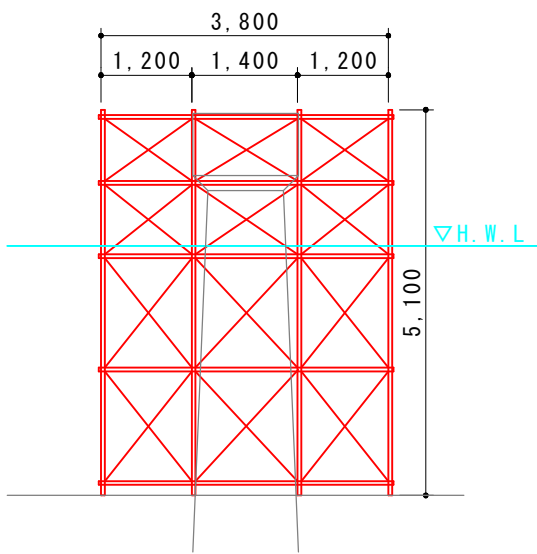
橋長 L=34100



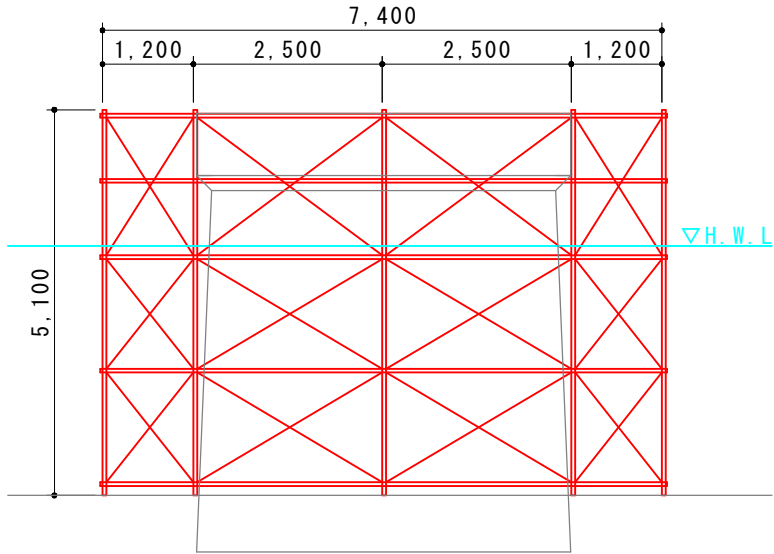
橋面平面図 S=1:100



側面図 S=1:100



正面図 S=1:100



令和8年度 道路橋梁維持管理事業

福井橋補修工事

相生市 若狭野町福井 地内

足 場 工（参考図）

4

縮 尺

図 示

4

相生市 建設農林部 都市整備課